

平成24年度 府立乙訓高等学校学校経営計画(実施)

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点目標
<p>知・徳・体の調和のある人間の育成に努め「文武両道」をめざす。</p> <p>本府「教育振興プラン」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫のある教育課程を編成し、日々の教育活動の充実に努め、進路希望の実現と、心豊かにたくましく生きる人間の育成に努める。</p>	<p>1 学力向上に向け「授業改善」・「自学自習の気風醸成」の取組を一層推進する。「授業改善」については、昨年度に引き続き、本校生の学力実態や進路希望状況に即した授業の在り方を各教科で検討し、「学力の伸張が実感できる」授業を展開する。また、昨年度の前進点を踏まえ、ICTを活用した授業にさらに習熟し、生徒の知的好奇心や興味・関心を喚起する授業実践にも取り組む。自習室の更なる整備などのハード面の充実と同時に、「学びに対するモチベーションアップ」「効果的な学習法の指導」などソフト面での指導強化を図り、家庭学習時間の増加を目指す。</p> <p>2 卒業学年を迎えるスポーツ健康科学科1期生の希望進路実現に向けた取組の強化をはかる。</p>	<p>特色化に向けた学校改革の推進</p> <p>1 スポーツ健康科学科における学習内容と事業等の体系化を確立する。</p> <p>2 学校の特色化のための検討・研究を行うプロジェクト会議を構成する。</p> <p>3 高い希望進路実現に向けた学力向上・定着</p> <p>(1) 高大連携・高大接続を視野に入れた土曜活用事業等の推進を行うとともに、学習室(自習室)の有効活用を図る取組を推進する。</p> <p>(2) 進路指導対策会議の活用により各種模試の結果の分析など、一人一人の状況を把握し、学力向上のための指導と方策を講じる。</p> <p>(3) パナソニック教育財団特別研究指定の仕上げ年を機として、ICT等を活用した授業にさらに習熟し、「生徒に学力をつける授業」の構築に努力する。</p> <p>(4) 基礎学力向上のため、SHRの有効活用等により学習習慣の定着を図る取組を行う。また、定期考査前に、成績不振生徒に対する「学習講座」を取組み、評定「1」の生徒を減少させる取組を継続する。</p> <p>(5) 「乙訓高校学びの流儀」(仮称)の構築に向けた(学習ノートの作成)・(学習クラブの立ち上げ)については、引き続き研究・作業を進める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	分掌	評価	成果と課題
1 組織運営	組織的な校務運営の推進	<p>(1) 新校務システムの円滑な運用を図り、成績、出欠管理、指導要録、調査書等、職員が能率よく業務をこなすことができる環境を整備する。</p> <p>(2) 教科主任会議をより機能させ、公開授業等を通して授業改善に取り組む。</p> <p>(3) 校内ネットワークを有効に活用し、各分掌・教科からの連絡や生徒の欠席状況等の情報の共有化およびリアルタイム化を行う。</p>	教務	B	<p>(1) 新校務システムの運用が軌道に乗り、業務の効率化に寄与してきている。他の分掌との連携をさらに強め、生徒の学習指導等により有効に機能するように活用方法を工夫していく必要がある。</p> <p>(2) ICT活用授業の研究指定校として学校内外に向けて多くの公開授業を実施し、日常の授業においてもICTの活用が一層進展した。</p> <p>(3) 生徒の欠席状況や授業の出席状況について、校内ネットワークを活用し情報を共有することができたが、今後はさらに情報を一元化できるように工夫をしていく必要がある。</p>

	生徒募集対策	<p>(1) スポーツ健康科学科については、学科説明会等を積極的に催し、学習意欲の高い生徒の確保に努める。</p> <p>(2) 高大接続コースについては、設置目標を明確にし、より高い進路目標を持つ生徒を確保する。</p> <p>(3) 特に普通科においては、学校説明会、中学校訪、教育機関訪問等により、本校の指導方針や魅力を正しく伝え、乙訓地域からの志願者の回帰を図る。</p> <p>(4) 中学生の進路決定時期に個別の進路相談会を積極的に展開する。</p>	総務企画			<p>(1) スポーツ健康科学科については学力の高い生徒が希望してくれるものの、年々志望数が減少している現状に対し、将来、教員養成系、看護・医療系、社会体育系を希望する府全域の中学生に専門学科の魅力をアピールすることが必要である。</p> <p>(2) 京都市内圏における第Ⅱ類への期待度が低下して中、十分な生徒確保はならなかった。入学生の一層の学力伸長を図る必要がある。</p> <p>(3) 第Ⅰ類への人気は高かった。生徒全体の学力を分析し、個に応じた学力伸長ができるよう工夫が必要である。</p> <p>(4) 個別に進路相談は進路決定時期の中学生の生の声を聴ける場として有意義である。</p>	
2	学習指導	基礎学力対策、進路実現	<p>(1) 教育課程特例校を申請し、類を越えた講座編成を柔軟に行い、類間で互いに切磋琢磨しながら学力伸長ができる環境を作る。</p> <p>(2) 定期考査前に実施する成績不振生徒対象の「放課後学習講座」の一層の充実化を図ることにより、成績不振者を減少させ、中途退学者、原級留置者の根絶を目指す。</p> <p>(3) 本校の目指すべき教育を検討しながら新学習指導要領に基づく効果的な教育課程を編成し、魅力的かつ信頼される学校を作る。</p> <p>(4) 自主学習の場としての学習室の一層の利用促進を図る。</p> <p>(5) 「おとくにベーシック」「おとくにアカデミア」の時間を活用し、基礎学力の定着及び難関大学入試等に対応できる発展的学力の育成を図る。</p> <p>(6) SHRの遅刻指導の方法を改善することにより遅刻の減少を目指し、より規律ある学習環境を確保する。</p>	教務			<p>(1) 新教育課程の編成については、平成25年度入学生について新学習指導要領の完全実施による教育課程を作成した。新制度における平成26年度入学生については、類・類型の廃止に伴う大幅な改訂を加えながら1年次の前後期制や理系コースの充実化等の特色をもつ教育課程の骨格が固まった。</p> <p>(2) 放課後学習講座は生徒の状況を考慮しながら対象者を選定して実施し、成績不振から脱却する生徒も現れ、年度途中での中退や転学生徒は昨年度より減少した。今後は生徒の実態にマッチしたより丁寧な取り組みをしていきたい。</p> <p>(3) 学習室の利用者がさらに増加し、定期考査前や大学受験対策の自習の場として定着した。</p> <p>(4) SHRの欠課過多による指導対象となった生徒が昨年度より減少した。今後も乙訓高校生としての生活や学習のリズムを確立していくための取り組みを進めていく必要がある。</p>
			<p>(1) 高大連携・高大接続を視野に入れた土曜活用事業の推進を図る。</p> <p>(2) AO入試・推薦入試に向けた指導や小論文指導を強化する。</p> <p>(3) 各種模擬テストを積極的に受験させるとともに、実用英語検定をはじめとした資格を積極的に取得させる指導を推進する。</p>	進路			<p>(1) 1年生では英数国3教科の講義、2年生では自習講座、各学期1回程度のモチベーションアップのための講演会を実施した。</p> <p>(2) 3年生を対象に4月から志望理由書講座を8月から国公立推薦受験者を対象とした小論文講座を教科と連携しながら実施した。</p> <p>(3) 英語科・国語科による英検・漢検の実施、3年生対象の進研・駿台模試の校内実施、全統の校外実施。センター直前模試の実施。1・2年生対象模試を実施した。</p>

3 進路指導	進路目標の明確化	(1) 各種進路説明会を通して早期からの進路意識の向上をはかる。 (2) 年2回の進路希望調査を実施し、生徒の実態を把握する。 (3) 低学年から将来のキャリア形成を意識させる取り組みを進める。	進路	B B A	(1) 各学年とも昨年以上にきめ細かい各種進路説明会を実施し、進路意識の向上を図るための仕掛けを数多く実施した。 (2) 3年生では4月に、2年生では10月と2月に進路希望調査を実施し、生徒の進路希望状況の把握に努めた。 (3) 1年生対象に学期2回ずつのキャリア教育プログラムを実施し、キャリア形成を意識した進路指導を行った。
	学力向上への取組	(1) 進路指導対策会議の活用により各種模試の結果の分析など、一人一人の状況を把握し、学力向上のための指導と方策を講じる。 (2) 各教科と連携し、高い希望進路実現に向けた進路補習を展開する。 (3) 進路資料室・学習室（自習室）の有効活用し、生徒の自学自習を支援する。 (4) FINE SYSTEM等を活用し、生徒一人一人の状況を把握、そこから見えてくる課題を教職員で共有し、生徒の学力向上をはかる取り組みを推進する。	進路	C B A C	B (1) 各種模擬試験の結果分析を行い、学年と連携しつつ、その対応を模索したが、教科との連携には課題を残した。 (2) 3年生の進路補習については年度当初に学年と連携して補習時間割を作成し、それに基づいて教科に依頼した。結果、進路希望にできるだけ沿った補習計画を作成することができた。 (3) 学年のもと学習室を開設し、早朝から夜まで生徒の自学自習を支援することができた。 (4) 担任全員のパソコンにFINE SYSTEMを導入し、模擬試験の結果を担任が把握できる体制を構築するとともに、進路指導部としても生徒の状況をつかみ、進路指導に反映させた。ただ、その活用については不十分な面もあった。
	学年部との連携強化	(1) 学年団との連携を強化し、生徒の実態に合わせた進路ホームルーム学習を推進する。 (2) 学年団との連携のもと、生徒一人一人に対するきめ細かな進路指導を展開する。特に3年生については年2回の進路検討会を通して生徒の進路希望の実現を図る。 (3) 進路指導部内に学年担当を置き、学年との連絡・調整をはかる。 (4) 生徒の課題にあわせたタイムリーな教職員研修会を展開する。	進路	B B B B	(1) 各学年と連携し、生徒の実態に合わせて柔軟に進路ホームルー学習を推進した。 (2) 3年生に対する全体、私大、国公立出願検討会を実施するとともに、2年生スポーツ健康科学科、II類生徒進路検討会を開催し、進路実現に向けた教員間の意思疎通を図った。 (3) 進路指導部内に学年担当を置き学年との調整を図った。 (4) 夏季休業期間中に外部講師を招き、キャリア教育に関する教職員研修会を実施した。
4 生徒指導	生徒会活動の充実	(1) 生徒会本部・各種委員会の活動をさらに活発化させ、学校行事・部活動の核となる集団を育てる。	生徒指導	B	(1) 前期後期ともに立候補で成立した。各種委員会も体育、美化、風紀委員会を中心に活発に活動できた。
	基本的生活習慣の確立	(1) 遅刻0をめざし指導に取り組む。 (2) 頭髪はもちろん制服の正しい着用や身だしなみの指導を推進する。 (3) 挨拶・会釈を励行する。 (4) 授業を大切にするための環境・条件整備に協力する。	生徒指導	B	(1) 今年度より朝の遅刻者に対して別室での指導を開始した。結果遅刻者は減少した。 (2) 朝の登校指導等を中心に頭髪、身だしなみについては概ね満足できる状況がつけられた。
	部活動の活性化	(1) 部活動の定着率を上げ、各部の活性化を図りながら、全国・近畿で通用する結果を出す。 (2) 顧問会議やキャプテン会議を開き、部員の研修会等を実施する。	生徒指導	B	B (3) 40名を超える生徒がインターンに出場した。 (4) 年間を通しキャプテン会議を持ち、各部活動に意識の向上を図った。

	問題行動の未然防止	(1)朝の登校指導や校内巡視等による点検を細かく実施することにより、問題行動等の未然防止に努める。 (2)生徒たちの意識向上のための働きかけを継続的に行う。	生徒指導	B	(1)問題行動の件数、人数ともに減少した。 (2)地域等からの情報にもすぐに対応し、その結果指導に繋がったものもあった。 (3)校内点検で問題行動の芽を発見する努力を継続し、様々な場面で生徒にフィードバックした。
	安全指導	(1)登下校時の安全指導を中心に自転車の乗車マナー向上に心がける。 (2)雨合羽の着用を指導する。	生徒指導	B	(1)毎日の校門指導と各学期に一回の登校マナー指導を通じて常に生徒たちに働きかけた。 (2)雨合羽を徹底するための指導を行った。
	人権教育	(1)教育活動全体に人権活動を位置付け、一人一人を大切に教育の推進を図る。 (2)家庭、学校、地域社会、関係諸機関との連携を密にした指導を展開する。	総務企画	B	(1)さまざまな人権問題について新たな取組を行った。今後、3年間を見据えた発展的に学習を継続させる必要がある。
5 健康安全	健康に関する知識・意識の高揚	(1)各種健康診断を丁寧に実施する。 (2)生徒の実態に応じた保健活動（講演会等）を実施する。 (3)心理面や発達に課題を持つ生徒の指導を、担任・保護者・スクールカウンセラー及び関係機関と連携を図り、効果的に行う。 (4)生徒の生活実態アンケートを実施し、健康課題を探り、課題解決を図る。 (5)生徒の健康課題の解決に向けた取組を保健委員会で行う。	保健	B	(1)各種健康診断は計画に沿って全員実施できた。 (2)3年生に対してAIDS講演会を実施した。 (3)今年度は他分掌や部顧問とも連携を図り、効果的に実施出来た。 (4)費用の関係から見送った計画があった。実行可能な取組を考えたい。 (5)文化祭において「清涼飲料水について」の取組を実施した。キャップ収集をやっているが、今後はその他日常的に実施する取組を進めたい。
	学習環境の美化整備	(1)日常の清掃・定期大掃除・外庭大掃除の指導を徹底する。 (2)美化委員及び教職員等による日常・定期清掃点検を実施する。 (3)美化委員会による環境整備（花壇整備等）の充実を図る。 (4)照度・水質・空気検査を計画的に実施する。	保健	B	(1)各先生方や部活動部員の協力と生徒の美化意識向上により、日常的に清掃活動が活発になった。 (2)清掃点検は日常的に実施され、美化委員による「美化コンクール」や清掃用具の点検等も行った。掃除の仕方の徹底を図る取組を実施し、より一層学校全体が美しくなるようにしたい。 (3)より一層の花壇の整備、充実を図るようにしたい。 (4)定期に環境検査を実施できた。
6 図書館経営	図書館の円滑な運営と図書館教育、視聴覚教育の充実	(1)教育活動を支え生徒の教養の育成を促す資料の充実を図り、図書館を円滑に運用する。 (2)団体鑑賞行事を実施する。 (3)視聴覚教材、機器の充実を図る。 (4)コンピュータによる書籍管理、貸出業務の実施。 (5)視聴覚教育研究会事務局校としての業務を行う。	図書	B	(1)生徒教職員の要望に応え、必要な書籍をそろえていった。 (2)団体鑑賞「修学旅行」は、満足度が高く、鑑賞態度も良かった。 (3)他部のHDビデオカメラで撮影を行った。SDHCカードの追加購入が必要である。 (4)書籍管理システムを導入した。順調に稼働中。 (5)本校で図書館見学会、図書委員会交

	図書委員会の充実	(1)図書委員会の指導と、委員会行事の充実を図る。 (2)図書館見学会・図書委員会交流会を本校で実施する。	図書	B	流会を実施した。準備及び実施の過程で生徒の大きな成長が見られた。委員会活動内容の継承が課題である。 (6)書籍管理システムを導入した。順調に稼働中。 (7)本校で図書館見学会、図書委員会交流会を実施した。準備及び実施の過程で生徒の大きな成長が見られた。委員会活動内容の継承が課題である。	
7 地域連携	学校情報の発信	(1)学校だより（おとくに Tribune）を月1回発行し、本校の様子を発信する。 (2)ホームページの更新をタイムリーに行う。 (3)開放型地域スポーツクラブ等の活動を通して、地域にスポーツ活動を通した本校の魅力を伝える。	総務企画	B	(1)おとくにTribuneは10回発行、ホームページは31回更新を行った。中学生、保護者が知りたい内容等を瞬時に広報できるよう計画的に取り組んでいきたい。 (2)開放型地域スポーツクラブの小学生教室は年1回の開催にとどまったが、地域中学校との合同練習会等を行うことができた。「おとくにクラブ」として小学生対象の柔道教室を新たに行うことができた。本校のスポーツ施設を利用して、地域の方々にスポーツの魅力を引き続き、発信していきたい。	
	ボランティア活動の実施	(1)長岡京市、向日町警察署等と連携しながら各種取組に参加協力する。また、「長岡京緑のサポーター」及び「地域安心安全ステーション」に取り組む。	生徒指導	B	(1)長岡京市市政40周年で「緑のサポーター」が表彰を受けた。 (2)長岡京市、向日が丘支援学校や長岡京市体育協会等の行事や取組みに参加・協力した。	
8 スポーツ健康科学科	スポーツ健康科学科充実に向けた取組の推進	(1)進学する体育系専門学科であるスポーツ健康科学科をさらに周知させるために、学校説明会、中学校訪問、関係教育機関への訪問を積極的に実施する。 (2)最新のスポーツ健康科学情報を取り入れるため、積極的にアドバイザー等を活用した高大連携授業を充実させる。 (3)高い進路目標を実現する体育系専門学科にふさわしい学力の充実、定着に努める。	スポーツ健康科学	B	B	(1)学校説明会、中学校訪問等を積極的にを行い、各中学校からの希望者の把握などは昨年より十分に行え、進学する体育系専門学科の周知が進んだ。 (2)高大連携、産学連携授業を昨年より多く実施し、生徒にスポーツ健康科学に関する情報の取得が充実した。 (3)土曜活用講座の実施、放課後の自習室開放等自学自習の学習姿勢を養うことができた。
9 校務事務	生徒の福利厚生	(1)修学支援の適切な運用を図る。(2)諸費収納事務の円滑な運用を図る。 (3)諸証明等発行事務の円滑な運用を図る。	事務	B	(1)概ね適正に処理できたが、諸費の収納に関して課題が残った。	
	財産・施設・設備、物品管理	(1)校舎・施設等の適正な維持管理を図る。 (2)快適な学習環境の維持・充実を図る。 (3)適正な物品管理を行う。	事務	B	B	(1)施設の維持管理、学習環境の充実については概ね適正に対応できた。

	個人情報保護	(1)セキュリティを考慮しつつ、利用しやすいネットワーク環境を一層充実させる。 (2)職員室、準備室における管理区域（生徒・部外者立入禁止区域）を設定し、個人情報流失の危険性を排除する。	総務企画	C	(1)職員サーバを更新し、OSをバージョンアップした。 (2)機器に関してはかなり充実したと考えられるが、教職員個々の情報モラルおよび個人情報に関する意識の向上が望まれる。
--	--------	--	------	---	---

学校関係者評価委員会による評価	平成 21 年度以来の学校改革の取組成果が顕著になった年度であった。特に、3 年生の進路実績においては、飛躍的な向上が見られた。また、部活動も活発に展開され、40 名を越える生徒が全国高校総合体育大会に出場するなど大きな成果をおさめることができた。今後は、この成果を土台に更なる発展を期待する。
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	今年度の成果を定着させるための取組を推進する。特に、学力的に中学校段階の知識の定着が不十分な生徒に対する効果的な取組を行う。
---------------	--

A：達成できている。 B：ほぼ達成できている。 C：あまり達成できていない。 D：ほとんど達成できていない。

学校関係者評価委員会による評価	
-----------------	--